

なにやってんだよ!

ネットワーク管理者・池田の

第15回 メールで「あれっ?」と思ったらヘッダーを見よ

最近の公開メーリングリスト(以下MLと表記)はメンバーが100人以上になることもめずらしくなく、メンバーの登録や削除にはML管理ソフトウェアが使われる。こうしたサーバー用ソフトウェアはいくつかあるが、いずれのソフトウェアにおいてもコマンド用の宛先にメールを送るだけで誰でもMLに参加できる。

〇〇 いつものまにやらMLに加入?!

メールを送るだけで参加できるので便利とは言えるが、ここで思い出して欲しいのが、現在のインターネットではメールを送ってきたのが本人であるかどうかを確認(認証)するシステムがまだ普及していない。つまり、誰かのイタズラである日突然あずかり知らないIMLに参加させられてしまっている、という状況があなたにも起こる可能性は十分にある。

とはいえ、参加させられた場合でも単にメールが届くだけなので大した実害はないと言えるが、興味がないメールが続々届くのは第一にうるさい、ダイヤルアップの場合は料金もかさむ。2~3日アクセスしない場合はプロバイダーに設置してあるメールボックスが一杯になってしまって必要なメールが受け取れていない、となるかもしれない。

こうした点もあるので、 unnecessary MLからは早々と退散するべきといえるが、その大前提として、あずかり知らないメールが数個来ただけで果たして「MLに参加させられた」と認識できるだろうか? 実際にはなかなか難しく「宛先が違います」メールを返信してあげたくなるだろう。ちょっと待って、MLからのメールに対して返信するとML本体に送ることになり、場合によってはML本来のメンバーから何十本とクレームのメールが来ることになる。

〇〇 まずはヘッダーをチェック

MLから届いたメール、特にメールヘッダーをよく見ると、差出人はどこの誰だか知らないけれど、宛先である「To」はすべて同じで、「Subject」には[test-ml 2042]のようなシーケンス番号が付いていることが多い。また、「返事はこちらへお願いします」を意味する「Reply-To」が付いている場合が多く、「To」と同じアドレスが書かれている。通常の返信は「From」に送ることになるが、「Reply-To」に従い「To」と同じアドレスに、つまり相手に返すはずが(経路は不明だが)自分に届いているアドレスに返信しようとする。これは明らかに普通ではないメールと言えるだろう。ほかにも、普段は見えないメールヘッダーの「Sender」(X-Senderとは違う)や「Precedence」など、通常のメールでは見られないものが付いているので、こうした場合はほぼ間違いなくMLと判断できる。

〇〇 脱退するための方法はいくつかある

MLから脱退するための具体的な方法はそれぞれのMLの方法に従うことになる。あるMLでは、メールヘッダー中に「X-ML-Info: http://www.ML-DOMAIN.co.jp/test-ml.html」のように関連ページのURLが記されている場合があり、そのページを読めばその具体的な方法が分かる。

URLの手掛りがない場合は、MLの管理人か、そのドメインのポストマスターにお願いする方法もある。メールヘッダーの「Sender」や「X-Envelope-From」などがある場合は、このアドレスがMLの管理者だ(管理者はMLオーナーと呼ばれる)。MLオーナーのメールアドレスは、「owner- @ML-DOMAIN.co.jp」か「-request@ML-DOMAIN.co.jp」の形なので、この形式の場合にはメールでお願いする。

この形式でない場合やはっきりと分からない場合は、MLサーバーのドメイン全体を管理しているポストマスターへお願いすることになる。WWWの管理者のメールアドレスはどのドメインでも「webmaster」や「www-admin」などと同様に、ポストマスターはどのドメインでも「postmaster@ML-DOMAIN.co.jp」なので、ここへお願いのメールを送る。これらMLオーナーやポストマスターにメールでお願いするときは、そのドメインのどのMLなのかを明確にするため、迷いこんできたメールの全文、とくにメールヘッダーすべて(「Recieved」などが重要)を必ず付ける必要がある。

メールヘッダーにはさまざまな情報が含まれているが、普段は必要ないため、メールソフトウェアが見せないようにしている。メールソフトウェアにはこのメールヘッダーを表示させる機能があるので、「宛先間違いかな?」と思った場合には、メールヘッダーをよく見てから対処しよう。



「おかしい!」と気付いたらヘッダーをチェック!



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp